

長く続いているコロナ禍ですが、この2年間、みなさまはどのようにお過ごしでしたでしょうか。我が家は世間のキャンプブームに乗り、ここ2年間は近場のキャンプ場へ何度か足を運びました。大自然の中で暮らしてはいるものの、布で覆われただけのテントで眠るという体験は、さらにその自然の中に身を預けるような感覚で、日々の暮らしでは味わえないものがありました。日が昇る前の静まり返った早朝から、朝日がゆっくりと昇り、それとともに気温が上がっていくのを肌で感じながら、草木や鳥、大地が目覚ましていく様子を目の当たりにできる体験は、それは素晴らしいものでした。

ただ、キャンプ初心者のため、なかなかゆったりスマートなキャンプはできないのが現状です。風の強い日は、テント設営で疲弊し、設営後も強風でテントが壊れやすいかとビクビクしながら過ごしたり、子供が早々に帰りたいとぐずったり…。緊急事態宣言中のキャンプ場閉鎖の時期は、何度か牧場内にテントを張りましたが、熊の気配(鹿だったのか…?)で結局ほとんど眠ることができなかつたり…。もう少しゆったり優雅な時間を過ごせるようになりたいものです。

野外で眠るという体験、私自身にとってとても楽しく素晴らしいものですが、それと同時に、雨の日でも風の強い日でも雪の日でも、快適に過ごすことのできる「家」があるありがたさを強く強く感じることもできた体験でもありました。



尾岱沼ふれあいキャンプ場

Odaito Fureai Camp Site

工房から車で1時間ほどの野付半島の付け根にあるこのキャンプ場は、森に囲まれた広々とした芝生の先に広がる穏やかな野付湾が、開放的でとても気持ちの良い場所です。平日は比較的に空いているのもおすすめポイント。野付湾越しに昇る朝日が最高でした!

野鳥観察日記

根室では1年中よく見かけるタンチョウですが、牧場にも時折姿を見せます。写真を撮りにゆっくり近づくと、特に慌てる様子もなく、こちらと同じ速度でゆっくりと距離を保ちます。間近で翼を広げて飛ぶ様子は、想像以上に大きく優雅です。



タンチョウ Red-crowned Crane

ツル目ツル科

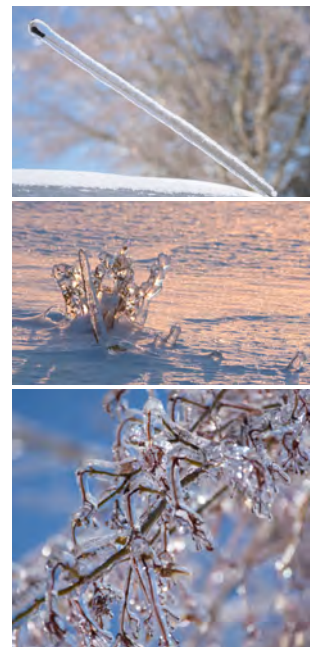
日本産ツル類中、最大の種。頭頂の赤い部分は、皮膚が露出している。4月、湿原の地上に枯れ茎で大きなマウンド型の巣をつくり、1~2羽の雛を育てる。淡水魚類やカエル、貝類、ネズミなどの小動物を捕食。水生植物の根や草本も食べる。(北海道野鳥図鑑, 2003, p288-289)

file7

3月のはじめ、降った雨が氷に変わる雨氷(うひょう)という現象が発生。5年前に初めて見たその現象は、キラキラ輝く世界が強く記憶に残りましたが、今年の雨氷は、地上の全てのものが凍りつく、まさにアナと雪の女王の世界!車のアンテナは温度計のような姿になり、雪から少し顔を出していたひよろひよろの牧草も見事に氷漬け。風が吹く度に、木々の氷がぶつかり合い、カラコロンと美しい音色を奏でていました。

娘の成長日記

自分より大きな動物もへっちゃらで追いかけて、ひたすら石ころを拾い、小さな虫に喋り掛ける日々。走るスピードも早くなってきました。



チカプの食べかた 「どうやって食べるんですか?」 とよく聞かれるので、レシピと言うほどでもないですが、お気に入りの食べかたをご紹介します。



ラクレット

少し厚め(2~3mmぐらい)に切ったアカゲラをフライパンに乗せて、弱火~中火でじっくり溶かして(火が強すぎるとチーズの油が分離してしまうので注意)用意した具材にかけただけ!具材を温めて用意しておく、溶かしたチーズが固まらず美味しく食べれます。

